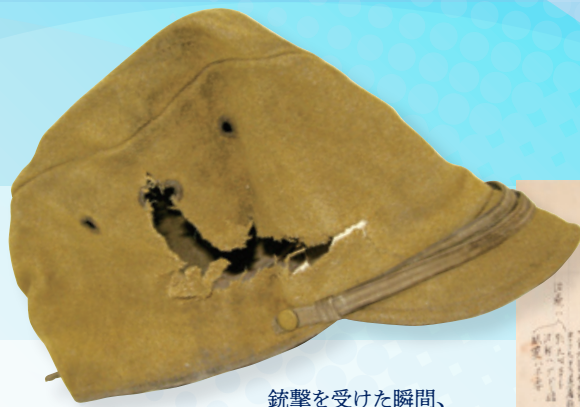
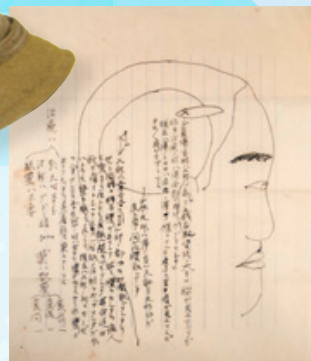




偽名は光明園に来てから使いました。



銃撃を受けた瞬間、傷口に手を当てたところ指が患部に入っけ、意識不明となった。



転がってきた手榴弾を見て、ハッと思った瞬間、轟音と同時に天地が逆さになり暗闇の中に落ち込むような感覚に襲われた。

春の企画展

残された言葉や声をたずねて

令和4年(2022) 3.15(火) ▶ 5.8(日)



どうして弾が当たった時に死ななかったのか。この世は地獄だ。

大腿部を切断する、よいか。と軍医に言われた。瞬時の決断を迫られ、お願いしますと声が出た。



不自由だったが、不幸な人生ではなかった。感謝です。



戦争から帰ってきて、左手で描き始めた。目に見えない何かに左手を動かされている。これは使命だ。

春の企画展 残された言葉や 声をたずねて

入場無料

戦傷病者は、戦中・戦後を通してさまざまな苦しみや辛さを抱えて生きてきました。彼らは、自身の体験を書籍や手記に綴ったり、映像で当時のことを語ったりしました。の中には、印象的な言葉や声が残されており、戦中・戦後に体験した労苦が詰まっています。戦地での思いや、戦後も続く傷の痛み、これまでの人生を振り返っての心境など、さまざまな場面で発せられた言葉や声の数々。戦傷病者の多くは既に亡くられており、直接話を聞くことはできません。本展では、残された資料からその言葉や声に耳を傾けます。

映像上映

内容：企画展関連映像

時間：10:00～17:00

場所：1階 証言映像シアター

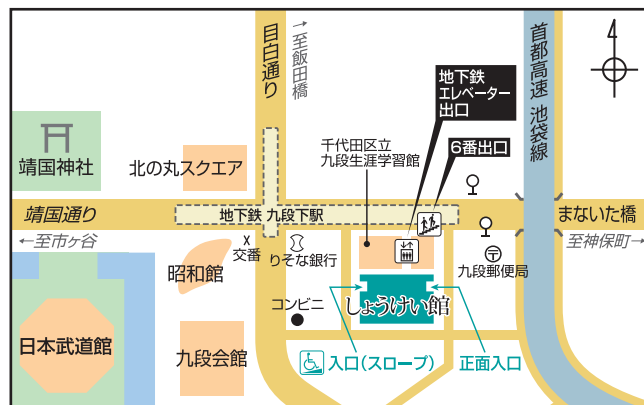
その他：鑑賞自由・無料

証言映像

当館で収録した戦傷病者の証言映像より、企画展のテーマに沿った作品を順次上映します。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。

しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。



● 地下鉄をご利用の場合

「九段下」駅6番出口から徒歩1分（東西線、半蔵門線、都営新宿線）

● 都営バスをご利用の場合

「九段下」停留所から徒歩1分（高71系統（九段下～高田馬場駅））

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

※車椅子で来館される場合は館の入口（スロープ）をご利用ください。

2022年3月15日(火)～5月8日(日)

会場：1階 企画展示室

開館時間：10:00～17:30（入館は17:00まで）

休館日：毎週月曜日・3/22(火)（3/21(月)は開館）



www.shokeikan.go.jp

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13
ツカキスクエア 九段下
Tel.03 (3234) 7821 Fax.03 (3234) 7826



※状況により中止とさせていただく場合があります。中止の場合はホームページにてお知らせいたしますので、ご確認願います。

お問い合わせ先：しょうけい館 03(3234)7821